

平成13年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

信州大学
附属図書館
教育学部
蔵

2003

長野県更埴市教育委員会

平成13年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

2 0 0 3

長野県更埴市教育委員会



更埴市の位置

例 言

- 1 本書は、更埴市教育委員会が平成13年度に実施した埋蔵文化財の調査報告書で、平成14年度に刊行した。また、整理報告作業の関係上、一部平成12年度に実施した調査も収録している。
- 2 調査は、更埴市教育委員会生涯学習課が主体となり、文化財係が担当した。

更埴市教育委員会事務局（平成13年度）

教育長	下崎文義
教育次長	松下 悟
生涯学習課長	柳原康廣
文化財係長	金井幸二
文化財係	佐藤信之 小野紀男

- 3 調査は、文化財係担当職員及び森將軍塚古墳館学芸員が当たり、調査員・作業員を募り調査を実施した。
- 4 本書は、各調査担当者が執筆して作成した。発掘調査のうち、規模の大きなものについては本書と別冊で報告している。
- 5 本書に掲載した位置図は、特にことわりがない限り、更埴市都市計画基本図を2分の1に縮小し、5,000分の1で掲載した。
- 6 本書中の方位は真北を示している。
- 7 各調査の出土遺物・実測図・写真等の全ての資料は更埴市教育委員会が保管している。なお、資料には各調査ごとに調査記号を付し、保管されている。

目 次

例言・目次			
平成13年度埋蔵文化財調査概要			
1	大塚遺跡 発掘調査	1
2	町田遺跡 発掘調査	6
3	倉科將軍塚古墳 発掘調査	9
4	地之目遺跡 発掘調査	13
5	屋代清水遺跡 発掘調査	15
6	屋代遺跡群 整理調査	19
7～10	試掘調査	23
7	巾下遺跡	8 更埴条里水田址	9 大池南遺跡
10	中島遺跡	25
11～25	立会調査	30
11	西上川原遺跡	12 更埴条里水田址	13 判官塚古墳
14	南沖遺跡
15	湯ノ崎遺跡	16 屋代城跡	17 南沖遺跡
18	窪河原遺跡
19	屋代遺跡群	20 倉科水田址	21 窪田遺跡
22	南棄水遺跡
23	一丁田尻遺跡	24 元町遺跡	25 町田遺跡

平成13年度埋蔵文化財調査概要

今年度実施した発掘調査は5件であり、昨年より2件増加したが、調査費用は前年並みである。開発事業に伴う調査は落ち着いた傾向にあり、民間の開発事業に伴う発掘調査は昨年度に続き1件もなく、公共事業に伴う発掘調査が4件実施されている。

公共事業では、まず、屋代中学校体育館建設に伴う大塚遺跡の発掘調査がおこなわれた。9世紀末に起きたとされる「仁和の洪水」によって堆積した厚い砂層の下から、平安時代の水田面が良好な状況で検出された。水田面から検出した畦畔は条里的地割を示すものであり、坪境を画すると考えられる畦畔は最大幅2mを測ることができ、これまでに調査がおこなわれてきた更埴条里水田址で想定される坪割にも一致して来るものであった。砂層に覆われた畦畔が良好な状態で検出されたため、長野県立歴史館の協力を得て、この土層断面の転写をおこない、森將軍塚古墳館で展示をおこなっている。調査報告書は平成14年度に刊行される。

防火水槽建設に伴う町田遺跡の発掘調査では住居跡の検出はなく、平安時代～中世の溝跡を検出したただけであった。

道路建設に伴う地之目遺跡の発掘調査では大塚遺跡と同様に「仁和の洪水砂」に覆われた平安時代の水田面を検出した。多くの住居跡が検出されている馬口遺跡に隣接している地点であり、住居跡が検出されることも想定していたが水田面のみの検出であった。水田面からは畦畔を検出しているが、その走向は条里的地割を成していない可能性が指摘できる。

屋内ゲートホール建設に伴う屋代清水遺跡の発掘調査では、弥生時代前期～中期初頭にかけての再葬墓群が検出された。調査地は長野県立歴史館の西側に隣接する地点であり、県立歴史館建設に伴う発掘調査成果からは遺構の密度が希薄になってくものと想定されていたところであったが、予想に反して多くの遺構が検出された。土器棺再葬墓を含む70基余りの土坑が検出されており、その多くが再葬墓になるものと考えられている。これほど多くの再葬墓が検出された例は余りなく、その成果が目される。平成14年度に整理作業を行い、調査報告書が刊行される。

平成8年度より国・県の補助金を受けて実施している屋代遺跡群発掘調査は、今年度整理作業をおこない調査報告書が刊行された。また平成11年度から実施している前方後円墳発掘調査は倉科2号墳及び3号墳の補足調査をおこない、いずれも長方形墳であるとの成果が得られた。整理作業をおこなうと共に、調査報告書が刊行された。

民間の開発事業は昨今の不況を反映してか全体的に落ち着いた状況にある。特に宅地造成に伴う調査が減少しており、試掘・立会調査を併せて2件しかなかった。

長野県埋蔵文化財センターによって昨年度から行われている国道18号坂城更埴バイパス建設に伴う発掘調査は、今年度社宮司遺跡を中心にして行われた。東西南北を溝によって囲まれた獨立柱建物跡などが検出されており、また溝内からは全国初の出土となった六角木椀等が出土している。

平成13年度調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	原因事業	原因者
発掘調査				
1	大塚遺跡	屋代	公共事業＝屋代中学校体育館建設	更埴市(教育総務課)
2	町田遺跡	両宮	公共事業＝防火水槽建設	更埴市(総務課)
3	倉科將軍塚古墳	倉科	学術調査	更埴市(森將軍塚古墳館)
4	地之目遺跡	屋代	公共事業＝市道建設	更埴市(建設課)
5	屋代清水遺跡	屋代	公共事業＝屋内ゲートホール場建設	更埴市(体育課)
整理調査				
6	屋代遺跡群		学術調査	更埴市(生涯学習課)
試掘調査				
7	巾下遺跡	栗佐	民間事業＝介護老人保健施設建設	社会福祉法人 博悠会
8	更埴条里水田址	屋代	公共事業＝公園建設	更埴市(都市計画課)
9	大池南遺跡	八幡	公共事業＝屋外炊事場建設	更埴市(生涯学習課)
10	中島遺跡	錦物師屋	公共事業＝児童館建設	更埴市(福祉課)
立会調査				
11	西上川原遺跡	新田	公共事業＝道路改良	更埴市(建設課)
12	更埴条里水田址	屋代	民間事業＝宅地造成	翰林不動産
13	判官塚古墳	八幡	公共事業＝水路建設	更埴市(農林課)
14	南沖遺跡	栗佐	公共事業＝庁舎建設	更埴市(総務課)
15	湯ノ崎遺跡	桑原	公共事業＝防火水槽建設	更埴市(消防本部)
16	屋代城跡	小島	公共事業＝市営住宅建設	更埴市(建設課)
17	南沖遺跡	栗佐	公共事業＝公衆トイレ建設	更埴市(総務課)
18	窪河原遺跡	両宮	公共事業＝道路建設	更埴建設事務所
19	屋代遺跡群	屋代	民間事業＝診療所建設	安川幸廣
20	倉科水田址	倉科	公共事業＝道路建設	更埴市(建設課)
21	窪田遺跡	小島	民間事業＝宅地造成	柳大建
22	南栗水遺跡	倉科	公共事業＝水路改良	更埴市(建設課)
23	一丁田尻遺跡	屋代	公共事業＝こ線橋建設	更埴市(政策推進課)
24	元町遺跡	稻荷山	公共事業＝水路改良	更埴市(建設課)
25	町田遺跡	両宮	公共事業＝道路建設	更埴建設事務所
長野県埋蔵文化財センター				
26	八幡遺跡群	八幡	公共事業＝国道18号バイパス	国土交通省

調査期間	面積	費用	備考
H13・4・16～6・8	1,400㎡	5,794,804円	平成14年度整理
H13・6・11～6・26	100㎡	979,179円	平成14年度整理
H13・8・22～8・30	100㎡	4,505,288円	
H13・12・6～12・14	100㎡	626,605円	平成14年度整理
H14・2・25～4・5	600㎡	2,374,224円	平成14年度整理
H13・7・2～H14・3・29		3,004,388円	
H13・5・18		重機負担	
H13・6・13	トレンチ9	112,350円	
H13・9・20、10・22	トレンチ3	13,680円	
H13・9・21	トレンチ3	重機負担	
調査結果			
H13・3・8	掘削60cm 遺構・遺物なし		
H13・4・18	盛土施工 掘削なし		
H13・5・10	掘削45cm 遺構・遺物なし		
H13・6・15	掘削50cm 遺構・遺物なし		
H13・6・16	掘削300cm 遺構・遺物なし		
H13・7・13	掘削150cm 遺構・遺物なし		
H13・10・5	掘削60cm 須恵器片2点出土		
H13・10・11	掘削60cm 遺構・遺物なし		
H13・11・9	盛土施工 掘削なし		
H13・11・14	掘削20cm 遺構・遺物なし		
H13・11・26	盛土施工 掘削なし		
H14・1・23	掘削40cm 遺構・遺物なし		
H14・1・25	100cmより平安時代の水田面を確認		
H14・2・22	掘削100cm 遺構・遺物なし		
H14・2・27	掘削50cm 遺構・遺物なし		
調査結果			
H13・4・17～12・20	10,000㎡	六角木樋ほか遺構・遺物多数出土	



第1图 更埴市川西地区調査位置图 (1:25,000)



第2图 更埴市川東地区調査位置図 (1 : 25,000)

1 大塚遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群大塚遺跡
(市台帳No.31-1調査記号 OTK 3)
- 2 所在地及び
土地所有者 更城市
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝体育館建設に伴う発掘調査
更城市(教育総務課)
- 4 調査の内容 発掘調査(調査面積約1,400㎡)
- 5 調査期間 平成13年4月16日～6月8日
- 6 調査費用 5,794,804円
- 7 調査主体者 更城市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 水田跡 平安時代～中世
- 9 遺構・遺物 水田面 2面
畦畔 8条
出土遺物 土器片 平安時代 コンテナ1箱



第3図 大塚遺跡調査位置図

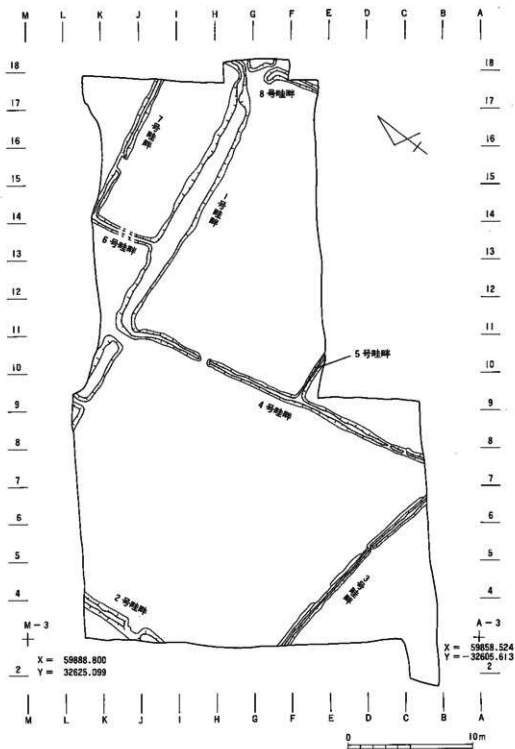
II 調査の所見

大塚遺跡周辺では平成9～11年にかけて、屋代中学校校舎改築に伴い発掘調査を実施している。その結果、古墳時代中期～平安時代の住居跡、条里地割に則った畦畔を持つ平安時代の水田面などを検出している。今回の調査地点は平安時代の水田面が検出されると予想される地点であったが、西側からは住居跡の検出も想定されたため、まず西半部の調査から開始した。

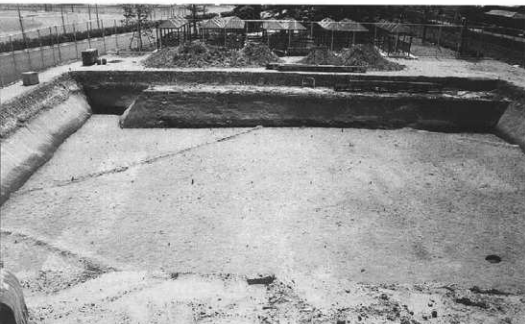
検出した遺構は厚い砂層に覆われた水田面のみであったが、条里地割に則った畦畔を確認することができた。環境の畦畔と考えられる1号畦畔は下底部の幅最大2mを測ることができ、延長40mほどを検出した。走向はN-100°-W前後を測り、周辺で確認されている条里地割の走向と一致する。この水田面は千曲川の旧流路が埋没した低地に開田されたものと考えられており、上部を覆う砂層は最大200cmに達する。

砂層に覆われた条里の環境畦畔が良好な状態で検出されたため、長野県立歴史館の協力を得て、この土層断面の転写作業を実施した。平成14年3月にクリーニング作業が完了し、4月より森將軍塚古墳館において展示されている。

平成14年度に「大塚遺跡Ⅲ」として報告書が刊行される。



第4図 大家遺跡全体図 (1:300)



大塚遺跡西半部全景
(東側より)



大塚遺跡東半部全景
(西側より)

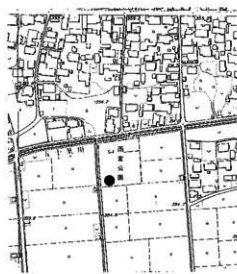


土層断面転写作業

2 町田遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ^{まちだ}町田遺跡
(市台帳No.30調査記号 YMC)
- 2 所在地及び 更埴市大字南宮宇町田1367-1番地
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び 公共事業＝防火水槽建設に伴う発掘調査
事業者 更埴市(総務課)
- 4 調査の内容 発掘調査(調査面積約100㎡)
- 5 調査期間 平成13年6月11日～6月26日
- 6 調査費用 979,179円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
調査参加者 猿渡久人 金井末夫 国光一穂 久保啓子 小林昌子 高野貞子
富沢豊延 中村文恵 宮崎恵子 宮島俊彦 柳沢君雄
- 8 種別・時期 集落跡 弥生時代～平安時代
- 9 遺構・遺物 溝跡 3基
出土遺物 土器片 弥生時代～中世 コンテナ1箱



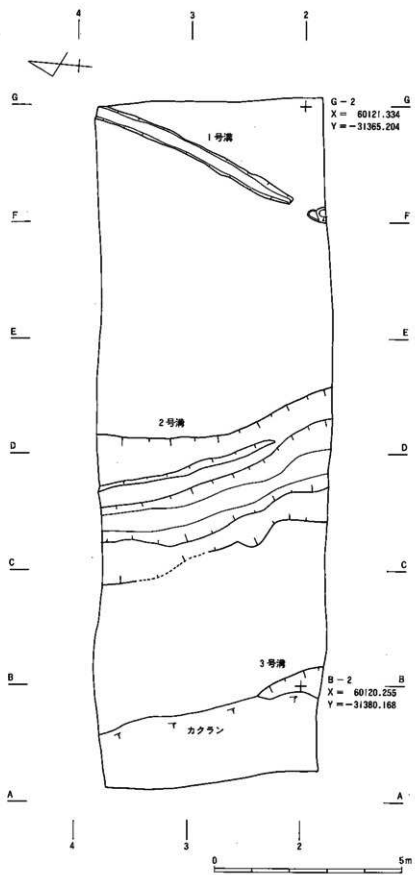
第5図 町田遺跡調査位置図

II 調査の経過

平成13年4月、更埴市総務課より南宮地籍において防火水槽の建設を計画しているとの連絡があった。当該地は南宮児童公園の敷地内であり、町田遺跡として周知されている地点であるため、工事の実施に当たっては発掘調査が必要な旨、報告をおこなった。5月24日、文化財保護法第57条に基づく通知が提出され、調査時期、方法等について協議をおこなった。市教育委員会では屋代中学校体育館建設に伴う大塚遺跡の発掘調査を実施しており、この調査が終了次第調査に取り掛かることとした。また、周辺の水田の田植え時期が迫っており、梅雨時と相まって出水が予想されることから、調査は6月中に終了させることとした。

大塚遺跡の調査が6月8日に終了する見込となったため、直ちに町田遺跡の調査準備に取り掛かった。6月11日より重機による表土剥ぎを開始し、12日から作業員が入り、検出作業をおこなった。児童公園建設に伴う立会調査では住居跡が確認されていたため集落跡の検出を想定していたが、住居跡の検出はなく、溝跡を3基検出しただけであった。このため、6月25日に現場における作業を終了し、26日に埋め戻しが完了した。

11月1日より整理作業を開始したが、国・県補助事業の屋代遺跡群範囲確認調査報告書の作成を優先させるため、報告書の作成は平成14年度におこなうこととした。

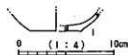


第6図 町田遺跡全体図 (1 : 100)

III 調査の所見

基本層序 (第8図)

調査地は現水田面に80cmほどの盛土をおこなって公園としているが、造成時に耕作土のすき取りがおこなわれたものと考えられ、現水田面に対応する層序を確認することはできなかった。130cmほどの造成土の下層は遺物を包含した茶褐色の層となり、遺構はこの層を掘り込んで構築されている。



第7図 町田遺跡出土遺物

2号溝 (第6-8図)

位置: B-D-2-4 規模: 最大幅 3m 走向: N-20'-W

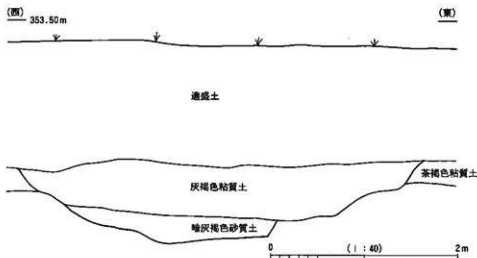
構造: 断面は基本的に逆台形をしているが、複数の溝が入り混じった形態をしている。調査区を横断する形で検出したため、検出延長は6mほどである。覆土は2層に分けることができるが、上部が削平されているものと考えられるため、溝本来の深さは不明である。

遺物: 2号溝周辺からコンテナ1箱分の土器片や獣骨が出土しているが、小破片が多く、図化できたものは1点のみである。また土器は弥生時代後期から中世のものまで様々な時代のものが出土している。第7図1は土師器坏であり、底部には回転糸切痕を残している。

IV まとめ

両宮児童公園建設に伴う立会調査の際には住居跡が確認されていたため、今回の調査においても住居跡の検出を想定していたが、検出した遺構は溝跡のみであった。この溝跡は出土遺物から中世以降のものと考えられ、古代に遡る遺構は確認できなかった。ただし、調査地は公園造成の際に土砂の入れ替えがおこなわれたために、遺構・遺物の包含層の大半が削平されてしまった可能性もある。

調査地周辺では中世段階において当時の人々の生活圏となっていたことは確実である。また、出土遺物の中には弥生時代後期まで遡るものもあるため、周辺に当該期の集落が存在している可能性を指摘することができ、これまでの調査成果と矛盾するものではない。



第8図 町田遺跡土層断面図



町田遺跡全景
(西側より)



町田遺跡2号溝
(北側より)



町田遺跡調査風景

3 倉科將軍塚古墳 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 倉科將軍塚古墳 (市台帳No.11 調査記号 KRS2) 長野県史跡
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字倉科字北山1731番地1ほか
個人
- 3 原因及び
事業者 更埴市教育委員会 生涯学習課 更埴市森將軍塚古墳館
学術調査
- 4 調査の内容 発掘調査 (調査面積約100㎡)
- 5 調査期間 平成13年8月22日～8月30日 整理調査 平成14年3月29日まで
- 6 調査費用 4,505,288円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
調査指導 岩崎卓也 長野県文化財保護審議会委員 木下正史 東京学芸大学教授
担当者 矢島宏雄
調査参加者 滝沢 誠 静岡大学助教授 風間栄一 長野市埋蔵文化財センター
及び協力者 服部哲則 東京学芸大学助手 建石 徹 東京芸術大学助手
東京学芸大学大学院生・学生 静岡大学大学院生・学生 関係土地所有者
- 8 種別・時期 古墳 古墳時代
- 9 遺構・遺物 2号墳 8.4×12.5m 長方形墳 埴輪片・土器片若干
3号墳 13.2×12.2m 長方形墳 埴輪片若干

II 調査の所見

調査の経過 本年度は、倉科將軍塚古墳2号墳及び3号墳の墳丘確認のための補足調査をおこない、また平成11年度からの本事業の調査報告書作成をおこなった。

2号墳の補足調査は、墳丘に「十」文字に4か所のトレンチを設けて墳丘裾部の確認をおこなった。墳丘北・東側には幅1mほどの溝が検出されたことから、墳丘の北東部分にトレンチを設けて裾部の確認をおこなった。この溝は墳丘主軸線に平行するように延びており、墳丘の裾部を区画していた。この溝内の墳丘盛土の流れ込み土層からは、壺3個体・高杯11個体以上の土器片が出土した。

3号墳の補足調査は、墳丘に「十」文字に4か所のトレンチを設けて墳丘裾部の確認をおこなった。尾根上部側の東トレンチでは、墳丘裾部に幅2.7mほどの浅い溝状に窪み、墳丘を丘尾切断により構築したことが確認された。

まとめ 2号墳の墳丘規模は東西8.4m、南北12.5m以上の長方形の墳丘であることが確認された。

3号墳の墳丘規模は東西13.2m、南北12.2mの長方形の墳丘であることが確認された。

築造年代は、2号墳は出土遺物から、倉科將軍塚古墳より新しく土口將軍塚古墳より古い段階であると推定された。一方、3号墳は出土遺物が全くないが、竪穴式石室の構築状況から倉科將軍塚古墳とほぼ同時期のものと推定された。



倉科將軍塚古墳2号墳
(北西側より)



倉科將軍塚古墳2号墳溝
(南側より)

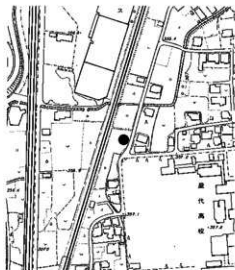


倉科將軍塚古墳3号墳
(東側より)

4 地之目遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- | | | |
|---|----------------|--|
| 1 | 調査遺跡名 | 歴代遺跡群地之目遺跡
(市台帳No.31-2調査記号 GNM) |
| 2 | 所在地及び
土地所有者 | 更埴市大字屋代字新田
更埴市 |
| 3 | 原因及び
事業者 | 公共事業＝市道建設に伴う発掘調査
更埴市(建設課) |
| 4 | 調査の内容 | 発掘調査(調査面積約100㎡) |
| 5 | 調査期間 | 平成13年12月6日～12月14日 |
| 6 | 調査費用 | 626,605円 |
| 7 | 調査主体者
担当者 | 更埴市教育委員会
小野紀男 |
| | 調査参加者 | 猿渡久人 国光一穂 久保啓子 小林昌子 清水嘉裕 高野貞子
富沢豊延 中村文恵 宮崎忠子 柳沢君雄 |
| 8 | 種別・時期 | 集落跡 奈良時代～平安時代 |
| 9 | 遺構・遺物 | 水田面 3基
畦畔 2条
出土遺物 土器片 平安時代 コンテナ1箱 |



第9図 地之目遺跡調査位置図

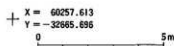
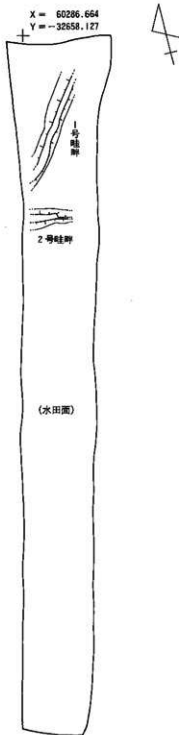
II 調査の経過

平成11年6月、更埴市政策推進課より歴代地区において道路拡幅を計画しているとの連絡があった。当該地は歴代遺跡群地之目遺跡として周知されている埋蔵文化財包蔵地であったため、同年9月、長野県教育委員会を交え、その保護について協議をおこなった。その結果、集落跡が想定される部分については発掘調査を実施して保護に当たることとなり、調査時期については工事の発注に合せておこなうこととした。

平成13年11月、事業実施が決定したとの連絡があり、文化財保護法第57条に基づく通知が提出された。市教委ではこれを受け、調査の準備に取り掛かった。

平成13年12月6日より調査を開始したが、想定されていた集落の検出はなく、厚い砂層に覆われた平安時代の水田面を検出しただけであった。このため調査期間の短縮を図ることができ、12月14日、現場における調査を完了した。

平成14年1月より整理作業を開始したが、国・県補助事業の歴代遺跡群範囲確認調査報告書の作成を優先させるため、報告書の作成は平成14年度におこなうこととした。



第10図 地之目遺跡全体図 (1 : 150)

II 調査の所見

基本層序 (第11図)

調査地の標高は356.5m前後を測ることができ、北側の水田とは1m以上の比高差をもっている。このため、集落跡の検出を想定して調査を実施した。現耕作土の直下は鉄分を含んだ茶褐色の砂層となり、その下層は黒褐色の砂層が20cmほど堆積している。この下層は黄褐色の砂が厚く堆積しており、その下から水田面を検出した。この砂層は9世紀末に起きたとされる「仁和の洪水」によって堆積したと考えられるもので、その層厚は170cmを超えている。上部の砂層も「仁和の洪水砂」が変質したものと考えられるため、調査地付近における洪水砂の堆積は200cmを超える。

平安時代の水田土壌は灰褐色の粘土である。地表面から水田検出面まで200cm以上の深さがあり、これ以上の掘り下げは危険と判断したため、水田面の下層の調査はおこなわないこととした。

水田面 (第10図)

検出した遺構は水田面1面のみである。水田面の標高は1号畦畔の北東側の水田面及び2号畦畔の東側の水田面で354.20m、1、2号畦畔に挟まれている水田面で354.30m前後を測る。

畦畔

調査区内からは2条の畦畔を検出した。調査範囲が限られていたため、水田個々の区画は不明である。

1号畦畔：調査区の北端から検出したものである。断面形はかまぼこ形をしており、走向はN-35°-E前後を測る。ほぼ直線的に延びており、検出した延長は5mほどである。

2号畦畔：1号畦畔の南側から検出したものである。断面形はかまぼこ形をしており、走向はN-105°-E前後を測る。このため、1号畦畔と2号畦畔は直交しない。検出延長は1.5mほどと短いため判然としないが、直線的に延びているものと考えられる。

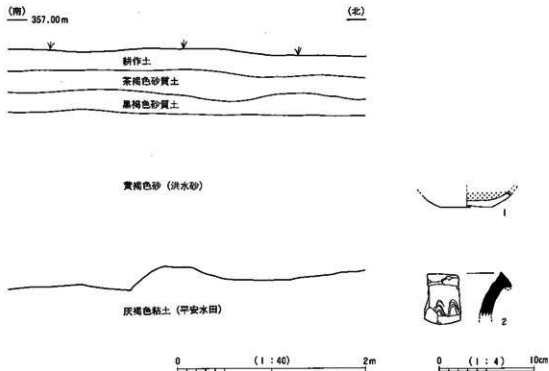
遺物 (第11図)

調査範囲が限られていたことと、検出した遺構が水田面のみであったため、出土遺物は非常に少なくコンテナ1箱に満たない。1は土師器坏の底部である。内面は黒色処理されており、底部には回転糸切痕が残っている。2は須恵器甕の口縁部であり、外面には櫛描波状文が認められる。

III まとめ

調査は非常に限られた範囲のものであったが、新たな成果を得ることができた。平安時代の水田面を覆う「仁和の洪水砂」はその厚さが200cmを超えるものと考えられ、これまでに更埴条里水田址や屋代遺跡群で確認されているものの中では最も厚い層厚を測ることができる。このように厚い砂層が確認されている地点は本調査地付近の他は大塚遺跡周辺だけである。大塚遺跡は千曲川の旧河道が埋没した低地にこの砂層が堆積したものと考えられており、砂層の下からは条里地割に則った畦畔を持つ水田面が検出されている。調査地付近の旧地形図を見ると、河道状の地形を読み取ることができることから、こども千曲川の旧河道が埋没した低地に水田が開田されたものであった可能性が指摘できる。

検出した畦畔の走向は、これまでに確認されている更埴条里水田址の畦畔走向とは明らかに異なっている。検出した延長がわずかであるため即断することはできないが、条里地割は本調査地点までは及んでいないものと思われる。調査地の東側に隣接する屋代高校の敷地内となる馬口遺跡周辺では、校舎改築に伴う発掘調査により条里地割に則った畦畔が検出されている。また、校庭の地下からは集落跡が検出されているため、調査地周辺での条里地割の拡がりはこの集落域が西限になるものと考えられる。



第11図 地之目遺跡土層断面及び出土遺物



地之日遺跡全景
(北側より)



地之日遺跡畦畔
(北東側より)



地之日遺跡調査風景

5 屋代清水遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 あししろしみず
屋代清水遺跡
(市台帳No.29-1調査記号 YSM4)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字清水260番地
更埴市土地開発公社
- 3 原因及び
事業者 公共事業=屋内ゲートボール場
建設に伴う発掘調査
更埴市(体育課)
- 4 調査の内容 発掘調査(調査面積約600㎡)
- 5 調査期間 平成14年2月25日～4月5日
- 6 調査費用 2,374,224円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 墳墓跡 縄文時代晩期～弥生時代中期
水田跡 平安時代～中世
- 9 遺構・遺物 掘立柱建物跡 1棟
土坑 76基
溝 3基
ピット 71基
出土遺物 土器片・土製品・石器等 縄文時代～中世 コンテナ10箱



第12図 屋代清水遺跡調査位置図

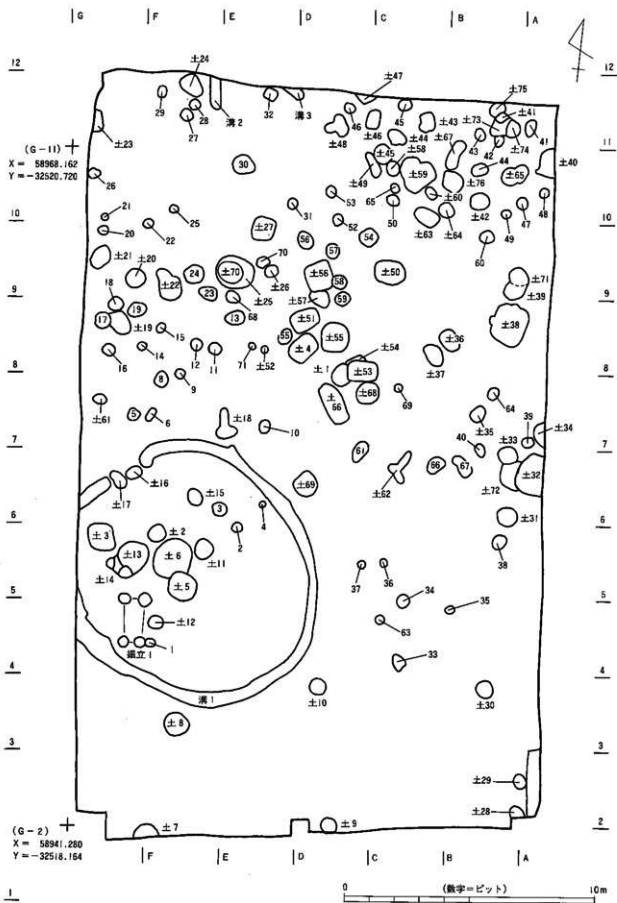
II 調査の所見

調査地周辺では、平成13年に長野県立歴史館建設に伴う発掘調査がおこなわれている。この調査では縄文時代の掘立柱建物跡や、弥生時代中期～古墳時代中期の住居跡などが検出されている。調査地は県立歴史館の西側、水田1枚を隔てた地点であったが、歴史館の調査成果から遺構・遺物の出土は希薄であるとの想定がされていた。

平成14年2月25日より重機による調査地の表土剥ぎを開始したところ、検出面から多量の遺物が出土した。検出した遺構は土坑・ピットなどが中心で、住居跡の検出はなかった。土坑の覆土中には炭化物や骨粉が出土しているものがあつたため、検出した土坑の多くが再葬墓になるものと考えられる。また、壺形土器を骨蔵器とした土器棺再葬墓が確実なものとして、7基検出している。

出土遺物の中で特に注目されるものとして黒面付土器・黒面土偶がある。出土したこれらの遺物は小破片が多いものの15点を数えることができ、墓域での祭祀行為との関連性を窺うことができる。

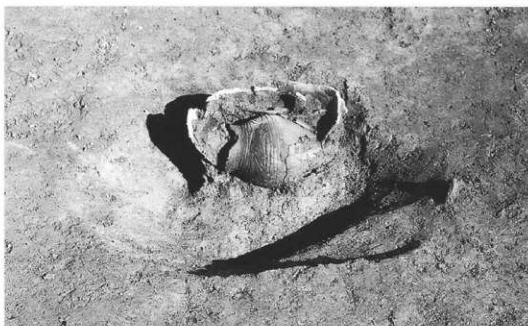
平成14年度に整理作業をおこない、「屋代清水遺跡II」として報告書が刊行される。



第13図 屋代清水道路全体図 (1:150)



屋代清水遺跡全景
(北側より)



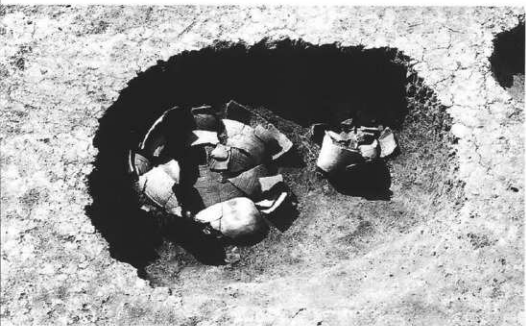
屋代清水遺跡1号土坑
(南側より)



屋代清水遺跡4号土坑
(北側より)



屈代清水遺跡53号土坑



屈代清水遺跡55号土坑



屈代清水遺跡1号溝

6 屋代遺跡群 整理調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群 (市台帳No.31)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字雨宮・屋代
更埴市・個人ほか
- 3 原因及び
事業者 学術調査
更埴市 (生涯学習課)
- 4 調査の内容 整理調査
- 5 調査期間 平成13年7月2日～平成14年3月29日
- 6 調査費用 3,004,388円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡 弥生時代～中世

II 調査の所見

調査は上信越自動車道建設に伴う発掘調査等により、国府木簡等官衙に関連する遺構・遺物が検出され、屋代遺跡群内に官衙が存在していた可能性が指摘されたため、国及び長野県の補助を受けて、平成8年度から実施してきたものである。本年度は整理作業及び報告書作成をおこなった。調査では官衙に関連すると考えられる遺構・遺物の検出はなかったが、多くの成果を上げることができた。

屋代寺地区1号住居跡からは、平安時代の竈形土器が出土している。北信地方では初の出土であり、県内でも5例目の出土である。また、14号住居跡からは弥生時代後期の北陸系土器が一括して出土した。出土した土器のほぼ全てが北陸系のもので占められており、当時の活発な交流が窺われる。

古墳時代後期の住居跡である大宮地区3号住居跡からは、まとまった量の遺物が出土している。また、鹿角製の刀子柄が出土し、茎部分が装着されたままの状態が観察できるものであり、注目される。

上信越自動車道と国道403号線土ロバイパスの交差点付近に設定した屋代遺跡群G地区では、瓦を用いたカマド状の遺構を検出している。ここに使用されていた瓦は胎土分析の結果、これまで屋代遺跡群内で出土していた「屋代寺瓦」とは組成が異なるとの結果が得られている。このため、調査地周辺には屋代寺とは異なる別の瓦葺の建物が存在していた可能性が指摘されている。

調査は平成13年度をもって完了し、「屋代遺跡群附松田館」として報告書が刊行された。



屋代遺跡群
屋代寺地区1号住居跡出土遺物



屋代遺跡群
屋代寺地区14号住居跡出土遺物

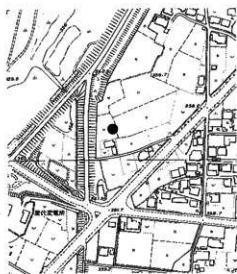


屋代遺跡群
大宮地区3号住居跡出土遺物

7 巾下遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 あひさ 粟佐遺跡群巾下遺跡 (市台帳No28-8)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字粟佐1177番地ほか
個人ほか
- 3 原因及び
事業者 民間事業＝介護老人保健施設建設
社会福祉法人 博慈会
- 4 調査の内容 試掘調査
- 5 調査期間 平成13年5月18日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 散布地 平安時代
- 9 遺構・遺物 なし



第14図 巾下遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内を重機により掘削し、埋蔵文化財の有無の確認をおこなった。その結果、当該地では地表下約180cmまで土取りによる攪乱がおこなわれており、埋蔵文化財は確認されなかった。このため、立会調査により保護に当たることとした。

8 更埴糸里水田址 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴 糸里水田址 (市台観No29)
- 2 所在地及び 更埴市大字屋代
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び 公園建設
事業者 更埴市 (都市計画課)
- 4 調査の内容 試掘調査 トレンチ9箇所
- 5 調査期間 平成13年6月13日
- 6 調査費用 112,350円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 水田跡 平安時代～中世
- 9 遺構・遺物 包含層1面

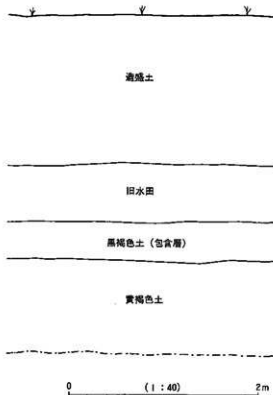


第15図 更埴糸里水田址調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内に9箇所の試掘坑を設定し、調査をおこなった。約120cmの盛土の下には遺成前の水田面が確認された。その下層からは遺物包含層の可能性のある黒色土の堆積を確認したが、遺物の出土はなかった。

工事による掘削は地表下100cmまでであり、埋蔵文化財に影響を及ぼす恐れはないと考えられるため、立会調査により保護に当たることとした。

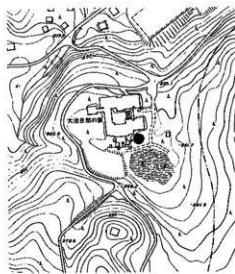


第16図 更埴糸里水田址土層断面図

9 大池南遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おおいけのみなみ
大池南遺跡(市台帳No45-1)
- 2 所在地及び
更埴市大字八幡字芝山2-620番地
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
公共事業=屋外炊事場建設
事業者 更埴市(生涯学習課)
- 4 調査の内容 試掘調査 トレンチ3箇所
- 5 調査期間 平成13年9月20日、10月22日
- 6 調査費用 13,680円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
調査参加者 猿渡久人 国光一徳
- 8 種別・時期 集落跡 縄文時代
- 9 遺構・遺物 包含層1面

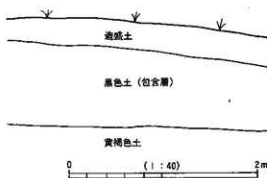


第17図 大池南遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内に3箇所の試掘坑を設定し、人力により掘り下げをおこなった。いずれのトレンチからも地表下約20cmから遺物包含層と考えられる黒色土の堆積を確認した。

工事による掘削は一辺70cmほどの基礎部分のみの掘削であり、面的な調査は不可能であると考えられたため、10月22日、工事に合せ立会調査を実施した。



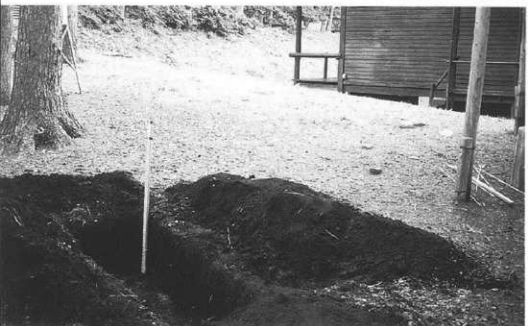
第18図 大池南遺跡土層断面図



大池南遺跡
1トレンチ



大池南遺跡
2トレンチ

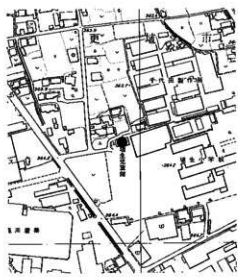


大池南遺跡
3トレンチ

10 中島遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 なかじま 中島遺跡 (市台帳No.175)
- 2 所在地及び
更埴市大字錦物師屋字中島108-1番地
ほか
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び 公共事業=児童館建設
事業者 更埴市 (福祉課)
- 4 調査の内容 試掘調査 トレンチ3箇所
- 5 調査期間 平成13年9月21日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡 弥生時代~中世
- 9 遺構・遺物 なし

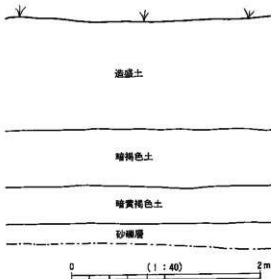


第19図 中島遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内に3箇所の試掘坑を設定し調査をおこなった。約80cmの盛土の下には造成前の耕作土と考えられる暗褐色土の地積が確認され、地表下約150cmで砂礫層となった。

試掘調査により、埋蔵文化財は確認されなかったため、立会調査により保護に当たることとした。

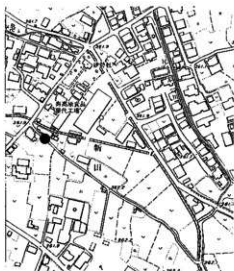


第20図 中島遺跡土層断面図

11 西上川原遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 西上川原遺跡 (市台帳No.143)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
更埴市大字新田字西上川原
- 3 原因及び
事業者 公共事業=道路改良
更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成13年3月8日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 散布地 奈良時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第21図 西上川原遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は60cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

12 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴条里水田址 (市台帳No.29)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字清水242-1番地ほか
榊林不動産
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地造成
榊林不動産
- 4 調査期間 平成13年4月18日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 水田跡 平安時代～中世
- 7 遺構・遺物 なし



第22図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

工事は盛土による宅地造成であり、下部への掘り込みはなかった。

13 判官塚古墳 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 はんくわんづか 判官塚古墳 (市台帳No90)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字八幡字判官塚5218番地
土地所有者 個人
- 3 原因及び
事業者 公共事業=水路建設
事業者 更埴市 (農林課)
- 4 調査期間 平成13年5月10日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 古墳 古墳時代
- 7 遺構・遺物 なし



第23図 判官塚古墳調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は45cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

14 南沖遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 みなつき 栗佐遺跡群 みなつき 南沖遺跡 (市台帳No28-2)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=庁舎建設
事業者 更埴市 (総務課)
- 4 調査期間 平成13年6月15日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 古墳時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第24図 南沖遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は50cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

15 湯ノ崎遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 湯ノ崎遺跡 (市台帳No.78)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字桑原字湯ノ崎1948番地
個人
- 3 原因及び
事業者 公共事業=防火水槽建設
事業者 更埴市 (消防本部)
- 4 調査期間 平成13年6月16日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 散布地 奈良時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第25図 湯ノ崎遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は300cmほどであったが、耕作土の下は黄褐色の砂礫土となっており、遺構・遺物は確認できなかった。

16 屋代城跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代城跡 (市台帳No.183)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字小島字寺前3075-3番地ほか
更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=市営住宅建設
事業者 更埴市 (建設課)
- 4 調査期間 平成13年7月13日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 城館跡 中世
- 7 遺構・遺物 なし



第26図 屋代城跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は150cmほどであったが、遺構・遺物は確認できなかった。

17 南沖遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 あさひ 粟佐遺跡群 あさひ 南沖遺跡 (市台帳No.28-2)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=公衆トイレ建設
更埴市(総務課)
- 4 調査期間 平成13年10月5日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落址 古墳時代~平安時代
- 7 遺構・遺物 須恵器破片 2点



第27図 南沖遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は60cmほどであり、須恵器破片2点の出土があったが、遺構は確認できなかった。

18 窪河原遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 あさひ 歴代遺跡群 くぼがわら 窪河原遺跡
(市台帳No.31-17)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字兩宮字窪河原
長野県
- 3 原因及び
事業者 公共事業=道路建設
更埴建設事務所
- 4 調査期間 平成13年10月11日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 縄文時代~平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第28図 窪河原遺跡調査位置図

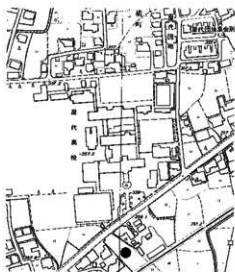
II 調査の所見

工事による掘削は60cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

19 屋代遺跡群 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群（市台帳No31）
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字中原858-4番地
個人
- 3 原因及び
事業者 民間事業＝診療所建設
事業者 安川幸廣
- 4 調査期間 平成13年11月9日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落址 弥生時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第29図 屋代遺跡群調査位置図

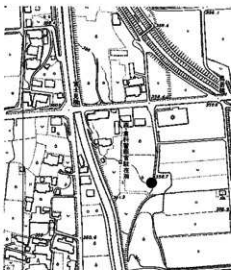
II 調査の所見

工事は盛土によるものであり、下部への掘り下げはなかった。

20 倉科水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 倉科水田址（市台帳No211-2）
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝道路建設
事業者 更埴市（建設課）
- 4 調査期間 平成13年11月14日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 水田跡 平安時代～中世
- 7 遺構・遺物 なし



第30図 倉科水田址調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は20cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

21 窪田遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 くぼた 窪田遺跡 (市台帳No.167)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字小島字窪田2871-2番地 榑大建
- 3 原因及び
事業者 民間事業＝宅地造成 榑大建
- 4 調査期間 平成13年11月26日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 散布地 奈良時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第31図 窪田遺跡調査位置図

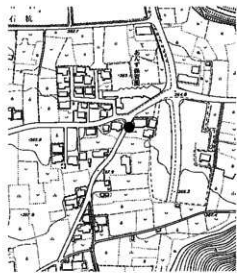
II 調査の所見

工事は盛土による宅地造成であり、下部への掘り込みはなかった。

22 南棄水遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 みなみすゐ 南棄水遺跡 (市台帳No.152)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市 更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝水路改良 更埴市 (建設課)
- 4 調査期間 平成14年1月23日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 散布地 古墳時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第32図 南棄水遺跡調査位置図

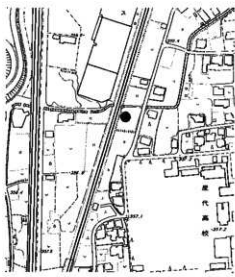
II 調査の所見

工事による掘削は40cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

23 一丁田尻遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群一丁田尻遺跡
(市台帳No.31-3)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=こ線橋建設
更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年1月25日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 散布地 奈良時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 水田面1面



第33図 一丁田尻遺跡調査位置図

II 調査の所見

地表下約100cmより平安時代と考えられる水田面を確認したが、工事による掘削面積が狭小であったため、遺物の出土はなかった。

24 元町遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 元町遺跡 (市台帳No.74)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=水路改良
更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年2月22日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 縄文時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第34図 元町遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は100cmほどであったが、耕作土の下は黄褐色の砂礫土となっており、遺構・遺物は確認できなかった。

25 町田遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 町田遺跡 (市台帳No.30)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字町田
長野県
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝道路建設
更埴建設事務所
- 4 調査期間 平成14年2月27日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 弥生時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第35図 町田遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は50cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

報告書抄録

ふりがな	へいせい13ねんど こうしょくしまいぞうふんかざいちようさほうこくしょ							
書名	平成13年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小野紀男							
編集機関	更埴市教育委員会 生涯学習課 文化財係							
所在地	〒387-8511 長野県更埴市杭瀬下84番地 TEL 026-273-1111							
発行年月日	2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
町田	長野県更埴市大字 屋代字町田1967-1番 地	20216	30	36 32 29	138 8 58	20010611～ 20010626	100	防火水槽 建設に伴 う発掘調 査
地之目	長野県更埴市大字 屋代字新田	20216	31-2	36 32 33	138 8 6	20011206～ 20011214	100	市道建設 に伴う発 掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物		特記事項		
町田	集落跡	弥生～中世	溝	3基	土器片			
地之目	水田跡	平安	水田面 畦畔	1面 2基	土器片	洪水砂に覆われた平 安時代の水田面		

平成13年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書

発行日 平成15年3月31日

発行 更埴市教育委員会

〒387-8511 長野県更埴市杭瀬下84番地

電話 (026) 273-1111

印刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野県長野市西和田470

電話 (026) 243-2105
